不動産の不思議　不動産のふしぎ　不動産の不思議　不動産のふしぎ

明海大学 不動産学部

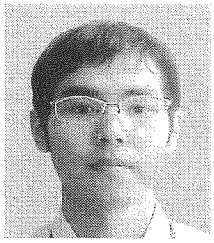
不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第38回

シンボルロードの再生

誰もが理解でき安全な環境



岡部 将史
不動産学部2年

【学生の目】

浦安市の代表的な道路にシンボルロードがある。新浦安駅付近から海まで続く幅員50㍍の道路だ。「みどり・あかり・みず・れきし」をテーマに四季を感じる街路樹を植え、電線類は地中化している（座安立「不動産の不思議第6回」13年10月29日号）。周囲の住宅や、商業・業務施設とマッチしたレンガやタイル、自然石を敷いた散策路を造り、随所にモニュメントやデザイン照明施設、水路などを配した都市軸である（浦安市ホームページ）。幅が広く色々の植栽や舗装が特徴のこの道路は、浦安市の豊かさのシンボルとなってきた。

11年3月に発生した東日本大震災の影響で浦安市は液状化被害を受けた。シンボルロードでは路面に発生した高低差のために、新しい低床バスは車体が道路にあたって走れず、急きょ古いバスを走らせた。

浦安市は復興に力をいれ、震災時も安心なようにインフラを強化した。シンボルロードの車道部は液状化対策の浅層混合改良工事を行った。歩道部は液状化による泥水を排出するために路盤を厚くし、ドレーン管を入れた単粒度砕石置換工事を行った（浦安市ホームページ）。

工事が完成したシンボルロードに、人と自転車を分けるマークがついたことに注目した（写真）。明海大学はシンボルロード沿いにあり、通学に使うが、浦安市は平たんで自転車の利用も多く、朝夕を中心に歩道は人と自転車で混雑する。前後から来る猛スピードの自転車に危険な思いをすることもある。

横浜で05年に女子高生が夜間、携帯電話を操作しながら自転車で走行中に女性と衝突し、被害者に重い障害が残る事故が起きた。自転車事故は全国で12万4077件発生し負傷者は11万9929人にのぼる。車道を通行することが原則だが、実際には歩道を走る自転車も多く、歩道上の事故も少なくない。シンボルロードでは誰もが理解できるマークを付け、子供や高齢者が安全に通行できる環境ができた。

浦安では復旧復興に際して単に液状化対策をするだけでなく、造られたときとは違う21世紀の課題、つまり、超高齢社会への対応や環境と共生する未来型の街づくりをめざしている（「浦安環境共生都市コンソーシアム」の活動）。そのために徒歩や自転車を大切にすることはとても重要だ。きれいになった道路につけられたマークは、新しい浦安の始まりを示しているようだ。

【教員のコメント】

20世紀的豊かさを体現した浦安のシンボルは、広く贅沢な道路の造り方（ハード）であった。アキレス腱の克服を契機に見据えた未来は、道路の使い方（ソフト）である。象徴は空間的なものから時間的なものに再生した。

新しく人と自転車を分けるマークがついた道